

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 西成区

学 校 名 大阪市立長橋小学校

学校長名 宮辺 渉

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長橋小学校では、第6学年 22名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の平均正答率は、国語・算数・理科のいずれの教科も全国平均・大阪市平均より下回る結果となった。無回答率も、全国平均・大阪市平均より高く、難しいと感じる問題に対して自分の考えを書き表すことができない児童が多い。国語では、物語文の問題や登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる『読む』の問題は、昨年度と比較し正答率が向上した。一方、漢字など言葉の特徴に関する問題は正答率が低く課題があった。算数では、グラフなどの資料から情報を読み取る『データの活用』の問題は、昨年度と比較し正答率が向上した。一方、作図や図形の性質などに関する『図形』の問題に課題があった。児童質問紙における「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する最も肯定的な回答は全国平均・大阪市平均を大きく上回った。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対する肯定的な回答も、全国平均・大阪市平均を大きく上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率は、全国平均・大阪市平均より大幅に下回る結果となった。特に『言葉の特徴や使い方』において、漢字や言葉の特徴について課題があった。文章の構成を考えたり自分の考えが伝わるように書き方を工夫したりする『書く』ことに関しても課題があった。文章を書くための語彙力や自分の考えを文章にして書く力を高めていく必要がある。無回答率は全国平均・大阪市平均より高い結果となった。書き表すことに課題があるため、自分の考えを表現する前向きな姿勢を持つことが難しかったと考えられる。そのため、日頃から自分の考えを表現することを積み重ねていく必要があると考えられる。

〔算数〕

平均正答率は、全国平均・大阪市平均より大幅に下回る結果となった。『図形』の領域において、コンパスを用いた作図の方法や図形の意味や性質の理解について課題があった。一方、『データの活用』の問題では、棒グラフから必要な数値を読み取りことや示された資料から必要な情報を選び計算するについて、昨年度と比較して正答率は高い結果であった。

〔理科〕

平均正答率は、全国平均・大阪市平均より下回る結果となった。『「生命」を柱とする領域』において、植物のつくりや受粉などの知識や観察を行うための機器の操作方法など技術について課題があった。一方、水の温まり方や蒸発など自分の生活体験で経験のあるような問題については正答率が高い結果であった。

質問調査より

「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する最も肯定的な回答は全国平均・大阪市平均を大きく上回った。地域の人やプロアスリートの方と出会い、話を聞く機会をつくることで、児童が将来自分がどのようになっていきたいのかを考える契機になっていると考えられる。

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対する肯定的な回答も、全国平均・大阪市平均を大きく上回った。「いじめはどんな理由があってもいけない」は、最も肯定的に回答する児童の割合は96%で全国より高い結果となった。この結果は、本校が大切にしている人権教育の成果であり、実践を深めることができている成果だといえる。しかしながら、この結果に留まることなく、すべての児童が「いじめは絶対にいけない」と言い切ることができることをめざしていきたいと考えている。そのため、今後も一人ひとりを大切にしようとする思いを育む人権教育を推進していきたい。

今後の取組(アクションプラン)

児童一人ひとりの学力を的確に捉え、個の実態に応じて学習環境を整えたり必要な支援を行ったりして、児童にとって「主体的・対話的で深い学び」となるよう取組を進めていく。教科学習での充実を図るとともに、学習の基盤となる豊かな人権感覚も養うことができるよう学びの場や仲間と協力して課題解決をしていく場を設定していきたい。そして、様々な教育活動を通して自己肯定感を高め、様々な角度から達成感や満足感を味わわせ学力向上につなげていく。

- ・自己肯定感の醸成を進めていくため、「学校規模ポジティブ行動支援」に取り組む。
- ・主体的・対話的な学びを実現する授業実践と、そのための授業研究を深めていく。
- ・エビデンス（各種アンケート・算数チャレンジ・多層指導モデル）を活用する。
- ・地域と連携して人権総合学習を推進し、学習基盤となる豊かな人権感覚の育成につなげる。

児童質問より

質問番号
質問事項

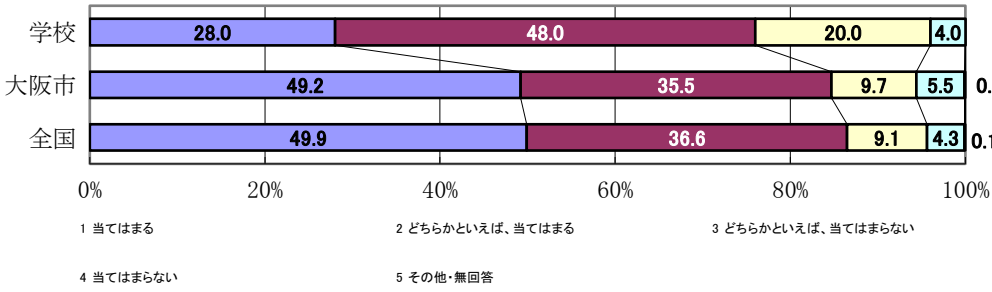
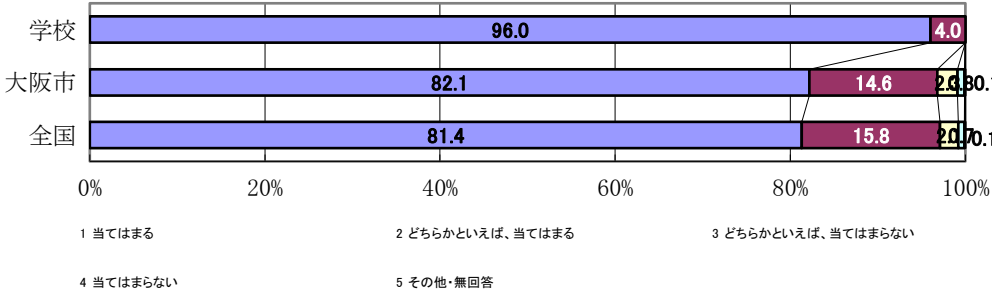
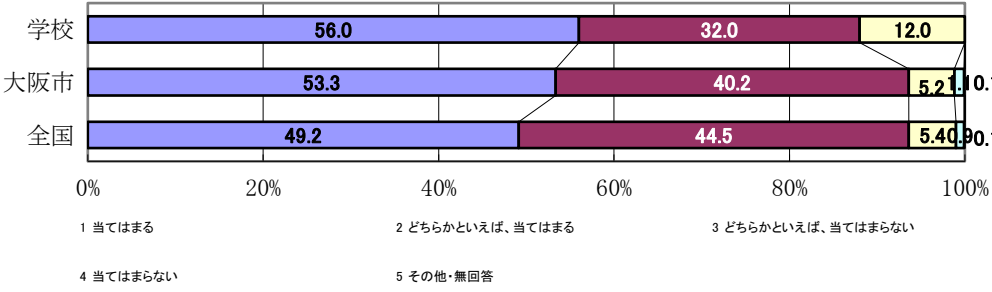
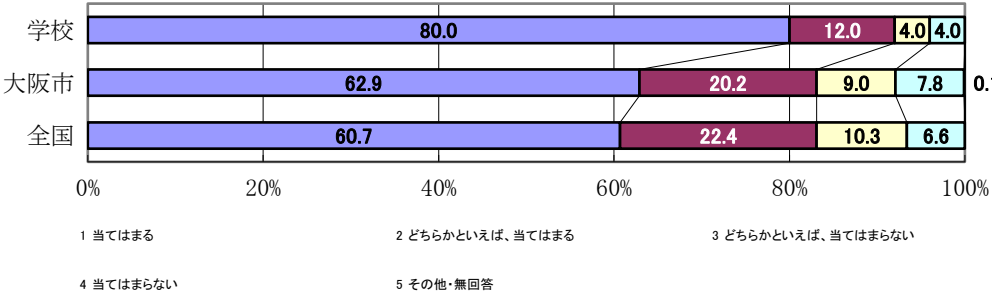
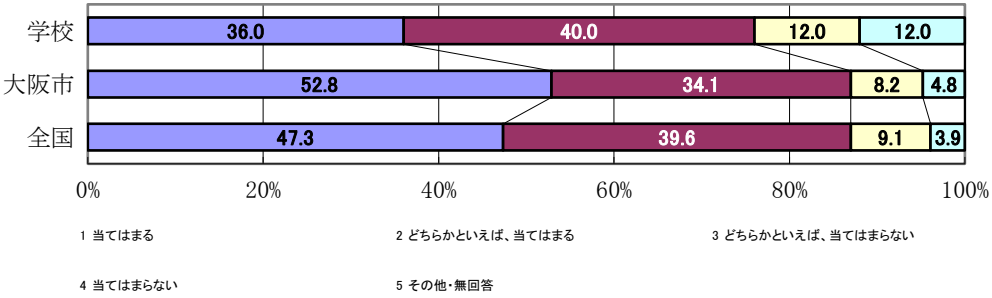
5
自分には、よいところがあると思いますか

7
将来の夢や目標を持っていますか

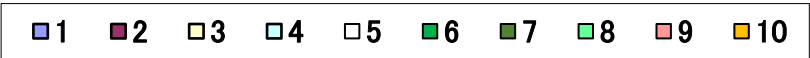
8
人が困っているときは、進んで助けていますか

9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

12
学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

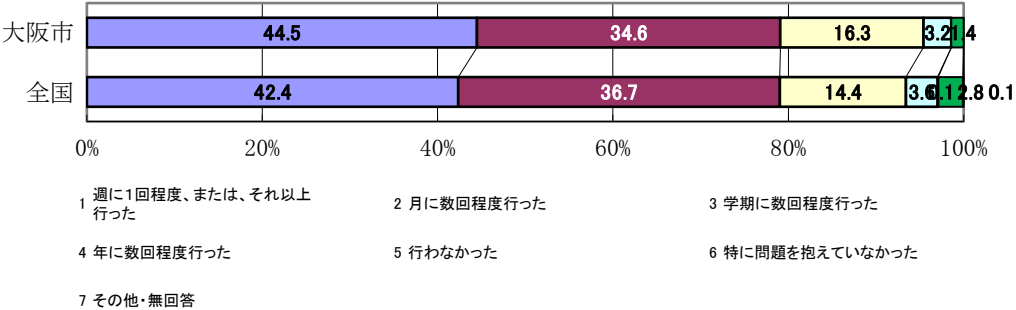


質問番号
質問事項

11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

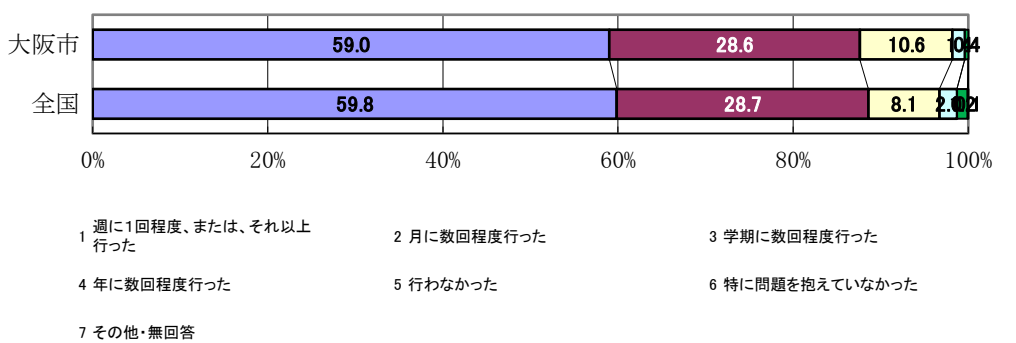
学校「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

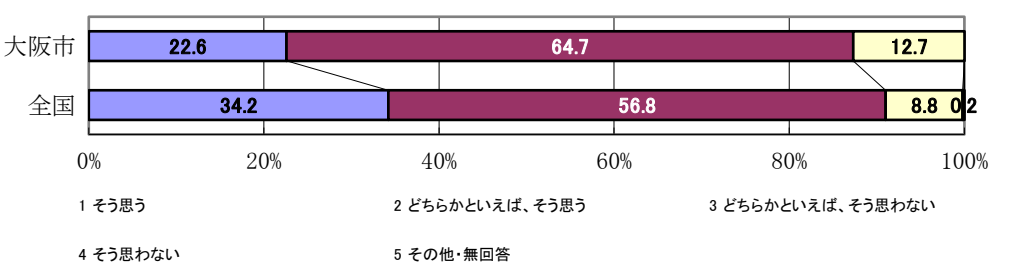
学校「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

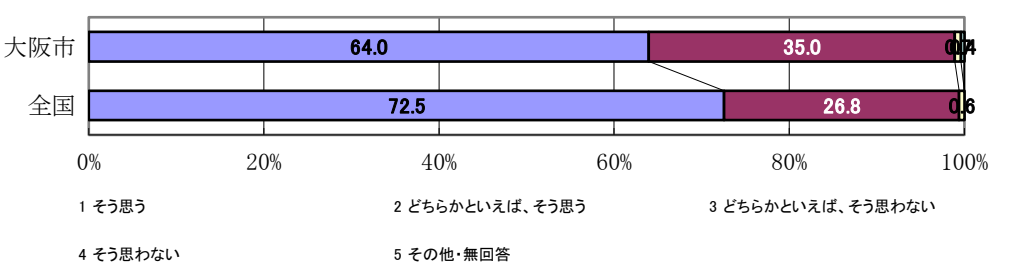
学校「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

学校「そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校「どちらかといえば、そう思わない」を選択

